

# 「漢字文化の展望」を開催して

大形 徹

2022年3月19日にオンラインシンポジウム「漢字文化の展望」を開催した。

基調講演

東アジア漢字文化の過去・現在・未来

金文京 京都大学名誉教授

簡牘文字 “各” 旁的省略

曹方向 海南師範大学

通訳 草野友子 日本学術振興会特別研究員RPD

中国古文字のデジタルテキスト化に関する諸問題

山田崇仁 立命館大学

鼎談

漢字文化の展望

金文京・曹方向・山田崇仁

通訳 草野友子 日本学術振興会特別研究員RPD  
司会 村上幸造 立命館大学

総合司会 山本優紀子 立命館大学

一般向けということもあり、ポスターには以下のくだけた内容を記した。

日本は独自の文字をもたない国です。「漢字があるではないか」というなかれ。あれは隣の国の発明で日本人はそれを借りているだけです。「ひらがな・カタカナがあるじゃないか」というなかれ。あれは漢字の草書体や漢字の一部分を利用したものです。そもそも漢字がなければ、ひらがな・カタカナは存在しませんよ。だから日本は独自の文字をもたない国です。

でも、いじけてはいけません。歴史が始まってから以降、そういう例は多々あります。シュメールが文字を発明し、アッカドはそれを利用しました。シュメールとアッカドの文法はまったく異なるんですよ。

でも文字は文法とはかわりなく使えます。「そういうえば、たしかに中国語と日本語の文法は違うよな」と、あたりまえのことに、いまさら気づきましたか。ついでにいえば、日本語と英語の文法もまったく異なるのに、ふつうにローマ字を使っていますよね。

「山」は本来、何と読みますか？「やま、でしょ」。さんねん！それは本来、読み方ではなくて、やまとことばを宛てただけの宛字（当て字）ですよ。日本語を知らない中国人に読んでもらって「らんなきい」「やま」とは読みません。いまだったら「shan」、唐代あたりだったら音読みの「サン」に近いかな。

さて、「漢字」という語は、唐代あたりにはじめて作られました。そのことは、今回の発表者の山田崇仁氏が詳しく調べられています。だから、厳密にいえば、それ以前の中国の文字は漢字とはいえないのです。でも、今回は堅いことはいわず、甲骨文あたりから始まる文字も含めて漢字としましょう。甲骨文・金文・篆書・隸書・楷書・行書・草書といった字体の変遷はあるものの、紡ぎだされた文字文化は中国国内だけでなく周辺の国々にまでひろがっていきました。そこにはたくさんの人々が往き来したはずです。人が来なければ、あるいは人が往かなければ、発音だってわかりません。漢字の文化は人々の交流の記録でもあるのです。

金文京氏には、東アジア全体を視野に入れた大きなお話をしてもらおうと思います。ただ、あちこちに細かい話も入れてもらおうつもりです。

曹方向氏には、出土資料のお話をしてもらいます。ここ掘れ、ワン

ワンというわけではありませんが、地中という過去からは出土文献という宝物が出てきます。一流の学者が推論を重ねて考察したことが、「こんなものが出てきましたよ」で、一瞬にしてくつがえってしまいます。こわい世界です。でも、こわいものほど面白いんです。

山田崇仁氏には、現在のデジタル化された漢字文献の扱い方とその未来を語ってもらいましょう。いまは四庫全書の七億文字が一瞬で検索できます。ただ、それだけでは足りないことがあります。さきにもた「漢字」という語が唐代に出てくるということは四庫全書では調べられません。仏教関係のデータベースも調べる事によってはじめてわかるのです。新しい資料とツールによって漢字文化は新たな展望を見せるでしょう。

シンポジウムは新型コロナウイルスの影響でオンラインということになったが、ツイッターや微信（Wechat。中国のSNS）上で、さまざまなコメントがあった。

ツイッターでのコメント

22時間

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所の漢字文化シンポジウム on Zoom で金文京先生の基調講演を拝聴。近年、韓国の首都「ソウル」を中国語では音訳で「首尔（Shouer）」と言いますが、これは朝鮮王朝時代の「漢城（中国語読みでは Hancheng）」を避けて欲しい韓国側から提案された言い方だと知りました。（NS）

3月19日

金文京先生の美声を聴いている。(R)

3月19日

白川静記念東洋文字文化研究所「漢字文化の展望」聴講。台湾国際芸術村で台湾のスタッフと韓国とシンガポールのアーティストと英語で意思疎通しながら漢字の話をしたのがとても楽しかったのを思い出しました。歴史の積み重ねで容易ではないことはあるにしても、漢字文化圏でもっと親交を深めたいです。(MM)

以下 wechat

○大形先生、こんにちは。zoom会議室の番号を教えてくださいませんか？こちらは直接にリンクで接続できません (WS) (深圳から。関西大学大学院の修了生)  
okです！できました！

○大形先生、您好！我把PL拉进来了 (GW) (大連から。夫婦ともに中国の大学の先生。日本に留学経験がある)

我们俩一起学习了 (GW)

大形老师您好！好久不见啊 (PL)

○先生、こんにちは (R) (ハルビンから。関西大学大学院生)  
会議に参加しています

漢字をどう読むのかをテーマにすることは面白いですね

好想给曹老师加油

でも、チャットに入力は禁止ですよ

※海南島にいた曹方向先生の声がオンラインでは聞こえず、そのやりとりで苦慮していた時に、みかねてチャットに書き込みしてアドバイスをしたくなったとのこと。

○大形先生こんばんは！ (HW) (北京から)

今日は『漢字文化の展望』討論会を聞いて、いろんな観点、発見、知識などを教えていただいても勉強になりました。特に漢字の共通認識、今はなくなったりつつあることを感じました。そして、漢字文化は今も他国に流れていると思います。例えば「草」という漢字は、日本語のネット用語で「笑」の意味となっていて、今、中国のアニメ文化圏もそういう意味で使っています。文化のぶつかり合いがあるからこそ、このような現象が起きているのではないだろうか。文化の交流、言語を学ぶことなどのために、漢字文化圏を守ったと思います。先生のおかげで、Unicodeなども初めて知りました！誠にありがとうございます！！

○日本語部分只能意会 (H) (ハルビンから)

※飛行機の中で話しかけられた中国の人。ハルビンで子ども向けの塾をしている。

「漢字文化の展望」を開催して

※オンラインのシンポジウムだと、リアルタイムで、いろいろなコメントが入ってくる。日本人で中国語のわかる人、わからない人、中国人で日本語がわかる人、わからない人、さまざまですが、「漢字」を紐帯としての、それぞれの理解、感想が面白いです。現場のスタッフや、事務室で待機していた事務の方も、とても面白かったという感想でした。

シンポジウムの具体的内容に関しては以下をごらんください。

(立命館大学衣笠総合研究機構特別招聘研究教授)